

平成 29 年度 第 6 回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

議事概要

1. 検討会の概要

日 時：平成 30 年 3 月 16 日（金）15:00～17:00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 5 階共用 A 会議室

出席者：林座長、岩田委員、牛山委員、宇田川委員、鍵屋委員、国崎委員、黒田委員
丸谷委員、渡邊委員
海堀政策統括官、伊丹審議官、安邊参事官、小林参事官補佐

2. 議事概要

議題ごとに各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

(1) 有明の丘研修(第2期)の報告

- 受講者からは単元の内容として巨大地震対策の要望があるが、研修のコース全体が巨大地震対策を意識して企画していることを理解してもらえばよいのではないか。
- 初日の講義の最後など名刺交換することをプログラムの中に組み込むことを検討すべき。
- 人的ネットワークが「非常に作れた」という方に、「研修後にメールなどで相談できるような方はつくれましたか？」とアンケートで訊くことで人的ネットワークの取組状況をより適切に把握できるのではないか。
- 確認テストの正答率が 70%を割っている問題については、設問内容の適切さをチェックするとよい。
- テストバッテリーを将来充実させていくという観点から、正答率が 100%に近い問題をまずは作成することで、設問を充実させていくことが必要。

(2) e ラーニング「事前学習」の試行結果報告及び次年度に向けた検討

- 受講者に、事前学習の結果が講義へ反映されたり、事前に講師に要望が伝えられたりすることで期待され、それに対応できない場合に不満につながる。そのため、各講師には受講者に何を学んでもらっているかに限り知ってもらえばよいのではないか。またその情報をコーディネーターや講師が十分活用するためにも、できるだけ早く伝えるようにした方がよいのではないか。

- コーディネーターや講師に提供する資料は、テストの内容と結果が端的に把握できるので、資料はできるだけ単純化、限定化してよい。
- 受講者の要望、研修を行うに当たって注意して欲しいことやコメントをコーディネーターから講師に伝える仕組みを加えることで、講師とコーディネーターの意図の連携が取れるようになるのではないかな。
- e ラーニングで学ぶ内容は毎回変更するようなものではなく、最も基本的な内容でよいのではないかな。
- e ラーニングの展開を考えると、標準テキストの見せ方や作り方を改めて考えていく必要があるのではないかな。
- 現行の標準テキストを変えていくのではなく、解説できるノートをしっかりと整備していく必要がある。

(3) 知識の体系の見直し

- 自治体職員が被災現場で迅速・的確に対応できることや受援力を発揮して応援を得ながら対応していくことなどについて深く教えることを検討することが重要ではないかな。
- 防災スペシャリスト養成で教えるべきことは 26 の防災活動について対象としているので、26 の防災活動の範囲内で知識の体系を整理すればよいのではないかな。
- 知識の体系は、防災白書だけではなく、他の白書の内容でも対象となるものがあるのではないかな。
- 防災基本計画の目次レベルとの比較からは、例えば避難行動要支援者名簿や惨事ストレス対策が抜けているなど重要なものが含まれていないため、こうしたものも追加すべきではないかな。
- 実際の研修に落とし込めるベースになるものを、ここでは「知識の体系」としており、現在は叩き台として作ってきている。時点修正やいろいろな整合性を含めて内容を充実させていくことが重要。

(4) 平成 29 年度企画検討会報告書について

- 本日提案した内容をベースに最終案をとりまとめ、各委員に送付修正の上、最終的には座長一任とする。